

女性の力発揮! コンクール受賞を祝う

農産物市場出荷協議会は10月5日、新型コロナウイルスの感染拡大により延期していた「県農業コンクール受賞記念式典」をJA情報センターパシオン大ホールで、ソーシャルディスタンスを保ち、マスク着用で開きました。出荷協議会の歴代会長、女性部の歴代部長、出荷協議会役員、行政、JA関係者ら85人が出席しました。

出荷協議会は令和元年度第60回熊本県農業コンクールで地域農力部門秀賞と女性の活躍賞、農林水産大臣賞を受賞しました。出荷協議会のあゆみを女性部4代目部長の荒木孝子さんが「女性の自立と地産地消を目指して」と題して発表。女性部会員が始めた地産地消の青空市場から、JA農産物市場第1号店オープンまでの経緯や3号店までの発展、地産地消活動、学校給食への提供、食農教育活動へと広がった女性部員の活躍と将来の目標などを語りました。



女性の自立と地産地消を目指して

式典を記念して、七城支部の荒木孝子さんが「女性の自立と地産地消を目指して」と題して発表しました。荒木さんは女性部部長、女性組織代表理事などを歴任。農産物市場の立ち上げから女性部の先頭に立って尽力していただきました。発表では、出荷協議会の成り立ちから活動の経過、今後の目標などを述べました。

[歴代出荷協議会会長]

中嶋サツ子、坂本タケコ、高山敬子、東慶子、中村ちわ子、池田勝代、歌丸貴子、東イスズ、岩木明美、藤本けい子、工藤清子



発表する荒木さん



出荷協議会のあゆみ

合併当初「自分たちが作った農産物を地域の方々に直接販売したい」とそんな思いで、女性部員による青空市場が合志や菊陽などで始まりました。また、当時農家の女性は自由に使えるお金がない時代であり、販売代金の収入により自由な活動をしたという女性の自立への意識も高まっていました。

地域全体に想いは膨らんでいき、女性部運営の直売所の設置をJAに要望し、他県で女性が運営する直売所の視察などを行

い、平成13年、念願の直売所「きくちのまんま1号店」(現・合志店)がオープンしました。その後、平成15年に菊池店、平成16年に菊陽店がオープンしました。ピーク時には会員が400名を超え、売り上げも伸び、他県からの視察も増えました。珍しかった直売所も現在では全国に広がっていますが、JAの女性部会員が運営する直売所はそう多くはありません。

出荷協議会会員の活動は学校給食への食材の提供、地域子どもたちへの食育活動へと広がっています。また、女性理事の誕生、女性農業委員などの地域のリーダーとしても活躍しています。

これからも、菊池地域が元気であるために、安全安心の農畜産物の提供のために、定期的な研修を重ね、仲間を増やしていきたいと思えます。新規会員を募集します。

農産物市場出荷協議会

自己改革は現在進行形 まだまだ躍進します!!